

「幸せになるための教育を実現する」ための教員アンケート結果

期間 令和4年7月1日～20日

対象 半田市内の小中学校に勤務する教員

回答率 74.3%（579人中430人）

【ねらい】

目的（子どもたちが自分の幸せとは何かを考え、幸せを実現できる力を身につける）を実現するために、小中学校の教育現場でどのような取組を行うことができるのかを「半田市幸せになるための教育を実現する会議」で検討しています。会議では「自分自身の基準で幸せについて真剣に考えること」、「多様性の尊重」を重要なキーワードと考えています。

1. 単純集計

0-1 あなたの令和4年4月1日現在の年齢を教えてください。

設問	人数	割合
～29歳	117	27.2%
30～39歳	98	22.8%
40～49歳	88	20.5%
50～59歳	91	21.2%
60歳～	36	8.4%
計	430	

0-2 あなたの勤務する学校はどちらですか。

設問	人数	割合
小学校	292	67.9%
中学校	138	32.1%
その他	0	0.0%
計	430	

1-0 【ねらい】の目的に合致すると考える取組をしている（した）ことはありますか。

設問	人数	割合
YES	182	42.3%
NO	79	18.4%
わからない	169	39.3%
計	430	

1-1 (1-0 で YES の場合) それは何ですか。【複数選択可】

設問	人数	割合
1. 授業での取組	149	81.9%
2. 学校学年行事での取組	85	46.7%
3. 授業・行事以外の児童生徒とのかかわりの中での取組	85	46.7%
4. 保護者へのお便り・連絡などでの取組	42	23.1%
5. その他業務での取組	25	13.7%
6. 業務以外での取組	9	4.9%
7. その他	3	1.6%
計	398	

1-2 (1-0 で YES の場合) 1-1 の具体的な取組は何ですか。

回答数 145

主な回答

- ・道徳での授業（多様性の尊重、命、幸せ、個性、思いやりなど）
- ・キャリア教育の実践、キャリアパスポートの作成・活用
- ・あいさつや声かけを中心とした生徒指導、相談、普段の会話
- ・学校行事で、得意分野で活躍できる場所を与える、充実感で自己肯定感を高める、幸福感、自律性を高める
- ・将来について考える機会を設ける
- ・学校生活すべてが自分の幸せを実現させることにつながっている
- ・他者の考えを聞き、自分の考えを深める場面を学習に取り入れる
- ・子どもの人格を尊重し、考えを押し付けない
- ・ボランティア活動
- ・金持ちになることではなく、「自分の小さな幸せ」を考えることによって本来の幸せを考える
- ・児童の特徴、個性に合わせた取り組みの実践
- ・誕生日を祝ったり、友達のいいところを認め合ったりする取り組み
- ・全員授業を目指して全員の発言を促す
- ・特別支援学級における自立活動、指先の技巧性など就労に繋がる取組
- ・勉強の理由を「大人になって幸せに生きるため」と考えて授業する
- ・貧困家庭と思われる家庭には就学援助の受給申請をすすめる
- ・物事をマイナスではなくプラスで捉えると、気持ちが明るくなると伝える
- ・保護者や生徒に向けて情報を発信
- ・子供の話をしっかり聞く
- ・普段の授業の中に「幸せ」の実現に向けた話を取り入れる

・友達のいいところを見つけ

2-0 【ねらい】の目的を達成するために取組みたい、実施したいと考えていることは ありますか。

設問	人数	割合
YES	261	60.7%
NO	169	39.3%
計	430	

2-1 （2-0 で YES の場合）それは何ですか。【複数選択可】

設問	人数	割合
1. 授業での取組	193	73.9%
2. 学校学年行事での取組	104	39.8%
3. 授業・行事以外の児童生徒とのかかわりの中での取組	97	37.2%
4. 保護者へのお便り・連絡などでの取組	47	18.0%
5. その他業務での取組	18	6.9%
6. 業務以外での取組	20	7.7%
7. その他	7	2.7%
	486	

2-2 （2-0 で YES の場合）2-1 の具体的な取組は何ですか。

回答数 175

主な回答

- ・道徳、総合の授業や学年末の振り返りで（自己の生き方、幸せなど）を取り扱う
- ・キャリア教育の実践
- ・地域、保護者などと協力、対話して学校運営を行っていく
- ・勉強、学びが楽しくなる、理解が進む工夫
- ・普段の授業の中での多様性の尊重、幸せなどを話題に入れる
- ・幸せや自分について考え、発信し、意見交換を行う
- ・多様な価値観に対応できる教育機会の提供のための20人～30人の少人数学級
- ・保護者、子どもたちへの「お便り」などを活用した啓発
- ・褒める、子どもに寄り添った対応
- ・適性検査の実施、自己分析と、その変遷を記録する活動
- ・個に応じた細かな教材、授業、声掛け、コミュニケーション、指導の実施
- ・子どもたちのかけがえのない未来があることを意識した生活指導
- ・職員室で何でも話せる雰囲気作り

- ・ボランティア活動、地域活動、部活動
- ・あいさつ、返事、お礼
- ・幼保、小、中の連携
- ・子どもたちと少しでも多くかわり、対話時間を持つ
- ・評価の見直し
- ・実験と観察を多くして、多くの経験を積ませる
- ・自主性の尊重、自己選択、自己決定をさせる
- ・職員、保護者が公私ともに充実すること
- ・自分の経験、想いを自分の言葉で話す
- ・小さな幸せでもいいので、普段の日常生活の中から幸せを探す活動
- ・授業時数の削減
- ・2 学期制の検討
- ・行事、式典の見直し
- ・子どもや先生方が安心して過ごせる学校づくり
- ・給食の無償化
- ・教科担任制の導入、学年グループ担任制
- ・教師間のいじめをなくす
- ・今まで実施していることを継続、改善

3-0 【ねらい】の目的に取り組むにあたり、障害となる（なると考える）ことは何ですか。【複数選択可】

設問	人数	割合	1 つ選択	修正割合
1. 障害はない	77	17.9%	69	16.0%
2. 時間がない	247	57.4%		77.4%
3. お金がない	66	15.3%		20.7%
4. 自分の能力・技術がない	157	36.5%		49.2%
5. 組織（市・教育委員会）の理解がない	15	3.5%		4.7%
6. 職場（同僚・上司）の理解がない	12	2.8%		3.8%
7. 保護者の理解がない	22	5.1%		6.9%
8. 地域の理解がない	7	1.6%		2.2%
9. 法律	11	2.6%		3.4%
10. 学校のルール	17	4.0%		5.3%
11. その他	23	5.3%		7.2%
12. わからない	53	12.3%	41	9.5%

※修正割合…「障害はない」「わからない」だけを選択した割合と、その人数を除いた方が当該項目を選択した割合

3-1 3-0 の具体的内容及び障害となることを解消するためのアイデアがありましたら教えてください。

回答数 106

主な回答

- ・教員の負担軽減（業務見直し、事務作業、集金業務、部活動、生徒会活動、家庭問題への介入など）
- ・教員の増員、人員不足解消
- ・予算の充実、国庫負担の増額
- ・幸せについての指導案、事例や教材、授業時間の確保など
- ・研修の充実、自己研鑽
- ・外部講師、民間人材、専門機関の活用
- ・学校行事、イベントの見直し
- ・教職員自身が幸せとは何か考え、実現に向けて取り組む
- ・本人が「他の子と違うことをするのは嫌だ」と思う気持ちが 1 番大きな壁
- ・教員がもっと子どもを知り、子どもの特徴に応じた勉強をすること
- ・良い指導の実践（教員間のコミュニケーション教科、学びあいなど）
- ・幸せのための教育に取組部署の新設
- ・教師自身幸せになることが必要
- ・家族と過ごすことができる時間を増やす
- ・変化や新しい取り組みを受け入れられないような職場環境は、おかしいと全員が認識する
- ・教師の気持ち、心構え
- ・柔軟な教育課程の編成
- ・低学年の通知表は年に 1 度にする
- ・教員が子どもに関わる時間を増やす
- ・学級の人数を減らす
- ・現状でできることから始める
- ・教育現場の実情を市教育委員会、保護者、地域に理解してもらう
- ・採用試験や給料の増額による高い能力の職員の確保
- ・家庭（保護者）向けのセミナーの開催
- ・タブレットの有効活用（完全に家に持ち帰られるようにする、欠品を生じさせない）
- ・教師間のいじめアンケートの実施
- ・このアンケートを入力することすら負担

4-0 その他のご意見

回答数 97

主な回答

- ・教員の負担軽減が必要
- ・支援員、教員などの増員
- ・学校環境、職場環境の改善
- ・教員の研修や研鑽は不可欠
- ・個に応じた教育の実践を目指す
- ・幸せが誰か一部の人のものになってしまうことのないように注意する
- ・現場の考えを理解してもらえるとありがたい
- ・このアンケートに答えるための時間もなかなか捻出できないくらいの忙しい
- ・社会に出てからの税金や年金についての正しい認識が必要
- ・高度情報化社会の時代に、スマホ、タブレットを活用した情報ツールの使い方を家庭とも協力して考える必要がある
- ・何か新しいことをしようとしたときの取捨選択が必要
- ・授業や学級経営に力や時間を注ぎ込める環境づくりをお願いしたい
- ・部活指導の地域化
- ・あいさつなどの基本的な事柄を引き続き指導（率先垂範）していくことが大事
- ・幸せは個々に違い、自分が幸せと感ずることが大事だが、自分の幸せだけでなく、周りの幸せも考える気持ちをもてることが大切
- ・幸せになるための教育を全体で指導することかは疑問
- ・子どもたちと教員の距離感をもっと縮められると良い
- ・幸せになるための教育を実現する会議が設けられたことは評価したい、期待したい
- ・この時間が無駄、これまでの意識を変えてほしい
- ・責任を学校に過度に押し付けるのではなく、家庭、学校、地域が手を取り合って育てていく社会を望む
- ・知識や理解がないまま「制服を替える」ことで変わったと思うのは疑問
- ・「生徒に考えさせる」「生徒の決定」といった文言に甘んじたりしない、「個の尊重」が大事
- ・さまざまな機関の介入は情報共有のための負担が増える割には解決につながっていない、関係機関と効率的、効果的な情報共有システムが必要
- ・教員以外の人と接する機会が増えると、教員とは違った目線から生徒の良さに気づくことがある
- ・子どもの幸せは、学校現場の取組だけで対応できるものではなく、社会教育で主に考えるべき
- ・教員間で自由な発言が許される職場であってほしい
- ・学校ごとに裁量できることを増やしてほしい
- ・給食費の無償化を望む
- ・具体的な手段まで考慮した提言を期待
- ・教員が幸せだと感ずることができる教育現場を望む
- ・1学級あたりの生徒数を早急に減らしてほしい
- ・箸箱セットの廃止

- ・配布チラシの電子配信
- ・スポーツ振興センター保護者負担をなしにする
- ・生徒と教師・教師と教師・生徒と生徒が議論できる関係であることが必要
- ・このような形で何度でも現場の声を吸い上げてほしい

5-0 教員として幸せを感じるのはどういう時ですか。

回答数 265

主な回答

- ・子どもの成長が感じられる時
- ・子どもの笑顔、喜び、楽しさが感じられた時
- ・保護者、子どもたち、卒業生から感謝、信頼される時
- ・子どもが一生懸命に頑張っている姿、生き生きとした姿が見られた時
- ・自分の満足のいく授業が行えた時
- ・教室や職員室で笑顔になれる出来事を生徒・同僚と共有できた時
- ・自分の家族のための休暇を抵抗なく取れる時、自分のプライベートの時間が持てる時
- ・生徒のちょっとした新たなきづきを感じた時
- ・ワークライフバランスが保たれているとき
- ・給料日やボーナス支給日
- ・ゆとりをもって子どもたちに接することができる時

2. クロス集計

◆上記の【ねらい】の目的に合致すると考える取組について（実施している（した）1-0 と取組みたい、実施したい2-0）

1-0(過去) \ 2-0 (未来)	YES	NO
YES	142	40
NO	35	44
わからない	84	85

※2-0 取組みたい、実施したいことがある YES に、1-0 取組をしている（した）YES をたすと、70.0%が何かしらの取組を実施した、したいと考えている。

◆特徴的であった年齢別

1-0 上記の【ねらい】の目的に合致すると考える取組をしている（した）ことはありますか。

設問	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
YES	23.9%	37.8%	51.1%	59.3%	50.0%
NO	21.4%	24.5%	12.5%	12.1%	22.2%
わからない	54.7%	37.8%	36.4%	28.6%	27.8%

※年齢が高いほど取り組んでいる

2-0 【ねらい】の目的を達成するために取組みたい、実施したいと考えていることはありますか

設問	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
YES	50.4%	52.0%	68.2%	74.7%	63.9%
NO	49.6%	48.0%	31.8%	25.3%	36.1%

※年齢が高いほど取組みたい。又は年齢が低いほど【ねらい】がわかっていない。

3-0 【ねらい】の目的に取り組むにあたり、障害となる（なると考える）ことは何ですか。

設問	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
1. 障害はない	11.1%	8.2%	22.7%	23.1%	41.7%
2. 時間がない	66.7%	71.4%	47.7%	47.3%	38.9%
3. お金がない	10.3%	27.6%	15.9%	11.0%	8.3%
4. 自分の能力・技術がない	50.4%	38.8%	35.2%	19.8%	30.6%
5. 組織（市・教育委員会）の理解がない	2.6%	8.2%	1.1%	3.3%	0.0%
6. 職場（同僚・上司）の理解がない	1.7%	3.1%	3.4%	4.4%	0.0%
7. 保護者の理解がない	5.1%	8.2%	3.4%	3.3%	5.6%
8. 地域の理解がない	2.6%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%
9. 法律	0.9%	6.1%	2.3%	2.2%	0.0%
10. 学校のルール	5.1%	7.1%	3.4%	1.1%	0.0%
11. その他	0.0%	7.1%	6.8%	9.9%	2.8%
12. わからない	12.0%	10.2%	11.4%	20.9%	0.0%

※取り組むにあたって 30 歳台の障害と感じている（認識）がもっとも高く、年齢が高くなるほど障害と感じている（認識）が減る。